



パレットの上でさまざまな色が

生み出されるように

四季折々の自然を生み出す丘

# パレットヒルズ

鷹栖町

## 鷹栖町とは

鷹栖町は、北海道のほぼ中央、上川管内の中心部に位置する人口約6,500人の豊かな自然に囲まれた町。

鷹栖町の由来は、かつて未開の地だった頃、トンビにハイタカ、オオタカなどの大きな鳥が生息し、大空に輪を描いて舞っていたと言われ、その光景を目の当たりにした人々が「大きな鳥（鷹）の棲むところ（巣）」を意味するアイヌ語「チカップニ」と呼ぶようになり、それが意訳され「鷹栖」となったと言われています。

基幹産業は農業で、道内屈指の米どころであり、付加価値の高いきゅうりの生産など、良質な農産物の供給地帯。また、名産品であるトマトジュース「オオカミの桃」は、道内外に出荷され知名度も高く、生産35年以上の歴史を誇る人気一品となっています。鷹栖町は令和4年7月にゼロカーボンシティ宣言を行いました。民協働での脱炭素の取組として「杜づくり」を進めてきました。住民が「杜づくり」をはじめた場所、そこは鷹栖町の豊かな四季を創り出す『パレットヒルズ』。

ここでは、鷹栖町と地域住民が創り上げた『パレットヒルズ』と『ゼロカーボン』脱炭素の取組について紹介していきます。

## 「蛇山」と呼ばれた場所

鷹栖町の北西部に位置するシーキウシュナイ山。その南側のひらけた山麓一帯に広がるパレットヒルズ。現在のパレットヒルズは、豊かな自然を余すことなく堪能できる他、観光やアクティビティスポット、そしてキャンプ場などの様々な顔を併せ持ち、見る人を魅了しています。

今では、町有数の観光地となっているこの場所は、かつて明治30年に富山県から移住した山口恒次郎氏が牧草地として経営し、その後、牧草組合により管理されています。蛇がたぐさん生息していたという言い伝えから『蛇山』と呼ばれるようになりました。この場所からの眺めは素晴らしく鷹栖町市街地や大雪山連峰を一望できることから、昭和63年頃に、この場所をどうにか利用できないかと、住民から様々なアイデアや構想が生まれ始めたそうです。

町は、この蛇山を平成元年度から2年かけて67.3ヘクタールを町有地として取得しました。この活用について、地域が一体となり、具体的な検討が始まり、平成8年に蛇山入口のクリーン・グリーンと名付けられた植栽地に桜やつつじを植樹し、整備の第一歩を踏み出しました。

「桜だとか町民の人たちが植えたい木を植えていました。そこからスタートして、池の造成とかを手がけていったんです。できる限り行政だけではなく、町民の方と一緒に作ろうと言った、観光協会や建設協会、などに協力をいただきましたが、整備をしてきた流れから、整備をしたいと思います。」と当時の苦労を鷹栖町役場の担当者は語っていました。

その後、住民同士で議論を重ね基本構想が完成し、平成10年1月の町広報紙にて、全国から「蛇山」に変わる新名称を募集したところ、全国からなんと2,774通、2,059作品が寄せられました。選考の結果「パレットの上でさまざまな色が生み出されるように四季折々の自然を生み出す丘」という意味合いが込められた「パレットヒルズ」という名称に決定し、今でも愛され続ける名称となりました。

## 町民手づくりの杜

また、この年から「パレットヒルズ推進委員会」が結成され、ボランティアを中心に、さくらの杜、水辺の広場、紅葉の杜など9つの区域に分けて本格的な整備、開発が始まっていきまし。当時を知る鷹栖町商工会の植西会長は「手作りの感のある場所にしたという思いが強かったこと、整備にかける予算も無いことから、機械をあまり使わずにあくまでも山の形を残しながら整備を進めていきました。」と振り返ってくれました。

平成12年には現在も続けている町民参加型の植樹祭が開催され、その後、鷹栖町老人大学院の卒業者の集まりである二千桜会（にちおうかい）をはじめとした様々な団体や企業がボランティアで植樹を実施していきまし。

草が生い茂った湿地帯や、木の育成に適さない岩石質の土壌という悪条件の中、スタートとなったパレットヒルズの整備事業。関わった多くの方の思いや苦労により、今では人と自然が共生する豊かな杜へと様変わりしています。

## 自然に近い再生を目指した植樹

パレットヒルズでは町民の皆さんによって現在も植樹が行われていますが、植樹は皆さんご存知のとおり、樹木は成長の過程で光合成を行い、空気中から二酸化炭素を吸収し、酸素を放出するため、空気の品質を改善する効果があります。そのため、ゼロカーボンの取組のひとつとして広く知られています。

植樹といっても様々な技法がありますが、パレットヒルズでは、「生物学的混播・混色法」（以下、混播法）による植樹が行われています。

一般的な植樹は植え穴を掘り、そこに苗木とその成長を補助するための支柱を立てた後、土をかけ、水鉢を作り、水を入れ完成となります。一方、混播法は自然に近い樹林を大規模に再生することを目的に、成長した樹木（苗木）を移植するのではなく、幼木もしくはタネを多数植えます。

この混播法は、平成3年に北海道工業大学（現北海道科学大学）と北海道開発局開発土木研究所（現国立

研究開発法人土木研究所寒地土木研究所）との共同研究により開発され、まさに北海道で生まれた植樹技法です。

パレットヒルズでは、混播法を取り入れることにより生物多様性に配慮した森林を造成し、新たに二酸化炭素固定可能な空間を作り出し、ゼロカーボンに対する住民への意識醸成や児童生徒への自然教育にも寄与しています。



## ここがポイント

### ◎ 自然を守るための取組

パレットヒルズでは、毎年、植樹祭を実施し、多くの方に森林保全に携わってもらっている。また、春の雪解けの時期には、地域の方々と春先の植物観賞を楽しみつつ、公園のゴミ拾いをするイベントを実施している。

こういった地域の人を巻き込んだ森林保全の活動は、森を二酸化炭素の吸収源とし保つだけでなく、ゼロカーボンに対する意識醸成にも繋がってきている。

ここがポイント

こんばほう  
混播法による植樹

自然林からタネを採集



[タネの採取]

まずはじめは、近くの森(自然林)でいろいろな木からたくさんのタネを採る。

[タネをばらまく]

果肉のついた種子は果肉を除去する。軽石(火山レキ)、腐葉土、赤玉土3:1:1で混合した土を発泡スチロールの箱に入れてタネを播く。

タネまきつけ



発芽



ポットに移植

芽生えが3~5cmに成長したら、幼苗を3~5本1束にしてポットに移し替える。



ビニールポット(直径9cm程度)

基盤整備



土は軽石(火山レキ)、腐葉土、赤玉土を3:1:1で混合。

[杭打ちとマルチング]

目印となる杭を打って、直径約3mの円をつくり、その中に5cm厚で砕いたマルチング材(砕石やチップ)を敷く。

養生



ポット移植後、最低2ヶ月間は灌水を行い養生する。ポット内で根を張らせる。

混播・混植



マルチングした円の中に実生群ポット苗とタネを10種選んで混播・混植する。

追跡調査及び評価



【生態学的混播・混植法】

参考:生態学的混播・混植法の理論・実践・評価 岡村 俊邦 著

今では2,000本の桜が咲き誇るパレットヒルズ。もちろん桜だけでなく、ナカマドやオニグルミ、ミズナラ等の木々が育ち、そのほとんどがパレットヒルズ内の木からタネを採取し、植えられたそうです。また、管理棟周辺にはハーブやハスカップ、ブルーベリー等の草花も植えられており、多種多様な植物を楽しむことができます。

町ではこの自然を子どもたちにも体験して欲しい、感じる欲しいという思いから「ふるさと共育」という取組を実施しています。四季が明瞭であり、自然が豊かなパレットヒルズは、子どもたちの自然学習の場として打って付けとなっております。地元の小学生は1、2年生の時に、ここで季節の植物や生き物を学び、自然のアクティビティを体験します。「小さいうちからパレットヒルズを知ってもらい、その子たちが大人になっても家族や子どもを連れてパレットヒルズに来るよ」と鷹栖町役場の担当者がかつて「蛇山」と呼ばれた山は、住民の思いが遊具と

ふるさと鷹栖に  
愛着を

なり、四季折々の表情を見せる「パレットヒルズ」として今なお変貌を遂げ続けています。ふるさと鷹栖に愛着を持ってもらえるようにといった「思い」が込められた取組は、これからも受け継がれていくことでしょう。

HISTORY

2013 ◀ 2010 ◀ 2003 ◀ 2001 ◀ 2000 ◀ 1999 ◀ 1998 ◀ 1996

- ・パレットヒルズ推進委員会からパレットヒルズを育てる会に移行。本田技研から桜苗木の寄贈。(2006年まで)
- ・パークゴルフ場(ふれあい広場)がオープンし、指定管理者に管理運営を委託。この年から「さくらフェスタ」が開催。
- ・「パレットヒルズ構想(初版)」をつくり、「自然と共生した杜」な「次世代に引き継ぐ町民の杜」などの基本方針を打ち出した。
- ・旭川トヨペットから桜苗木の寄贈。(2009年まで)
- ・町民参加の植樹祭を開催し180本の桜を植樹。以降、毎年実施。
- ・さくらの杜等の整備、植樹。以降、毎年継続。二千桜会やイチイの会などによる桜やイチイなど180本の植樹。
- ・パレットヒルズ推進委員会などのボランティアが中心となって整備が始まり、ミズナラ150本を植樹。
- ・町民に蛇山開発の方法等について提案。蛇山入口にてグリーン・グリーン植樹を実施。



## Special Interview

鷹栖町商工会  
会長

うえにし たつよし  
**植西 辰義**

小さいお子さんからお年寄りまで1日かけて過ごせ、自由にいろいろな遊びができるような空間を造りたい。そしてこれからの時代をリードしたい。そこで、この時代をリードする人材を募りたい。私の世代で完成させるのではなく、ゆっくり時間をかけて整備をしていき、次の世代の人も巻き込んで造り込んでいくことが大切だと思っています。

パレットヒルズの今後について

一つは人工的な明かりがないため、星空や街並みがとてもきれいな見えるところは当時から変わらない魅力のひとつです。また、人工物がないところも魅力なので、今後も自然を活かした整備を続けて欲しいと願っています。もう一つは、これまで苗木から育ててきた桜です。桜の数も2000本ともなると見応えがあり、今年の桜の時期は約1万人の方が訪れ、道路が渋滞となり衝撃を受けました。

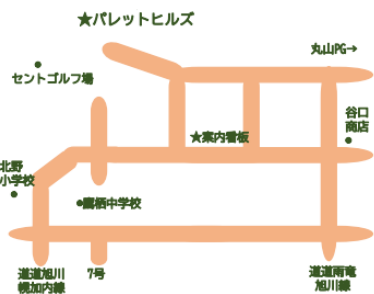
パレットヒルズの見所について

当時は予算の無い中、ボランティアにより整備が始まりました。30人ほど集まり、石拾いや実生から桜の苗木を作り出し、寄附された苗木を移植する活動を行っていました。秋にコスモスが観賞できたなら良いなと思い、種を蒔きましたが、急斜面のため雨が降ると種が下に流れてしまい全く芽がでませんでした。このような失敗も当時はたくさんしましたね。

整備当初の状況について



「パレットヒルズ」にいきましょう!



○住所 上川郡鷹栖町17線8号

○電話 グリーン開発 (指定管理者)  
080-5580-0297

### 注目情報

#### 「さくらフェスタ・夜桜ライトアップ」

毎年5月上旬の桜の時期に行われるお花見イベントです。2,000本の桜が咲き誇り、ご当地牛や地元米粉でつくるデザートが味わえ、フリーマーケットや地元吹奏楽団の演奏を楽しむことができます。また、夜には夜桜がライトアップされ、その美しい夜桜を一目見ようと見物客が殺到し、道路が渋滞するなど鷹栖町が誇るイベントの一つとなっています。



#### 「パレキャン」

「パレットヒルズでキャンプをする」略して「パレキャン」。コロナ禍のアウトドア需要によりここ数年で利用者の数は飛躍的に増加したキャンプ場、冬期キャンプも楽しむことができ、展望台から観る大雪山は絶景となっています。

